

## 教育福祉常任委員会議会報告会及び意見交換会について

- 1 日時 令和8年5月25日（月） 午後3時から午後4時30分まで
- 2 場所 いわき市議会棟 議場、第1委員会室、第2委員会室
- 3 参加者
  - ・不登校の子を持つ親の会の運営者等 6名
  - ・フリースクール、子ども・若者の居場所等の運営者 9名
  - ・保護者 3名
  - ・児童生徒等 5名
  - ・いわき市議会教育福祉常任委員会

委員長	柴	野	美	佳
副委員長	川	崎	憲	正
委員	小	野	光	貴
	吉	田	雅	人
	塩		恭	子
	山	守	章	二
	蛭	田	源	治
	赤	津	一	夫
	福	嶋	あ	ず
			さ	

### 4 内容

#### (1) 第1部 議会報告会

- ・議会報告会及び意見交換会の趣旨を説明
- ・令和8年2月定例会の審議内容について、いわき市議会だより『ほうれんそう』により説明



(2) 第2部 意見交換会（4グループ編成）

「不登校児童生徒の支援について」をテーマにワークショップ形式により実施

5 意見交換会で発表された意見

(1) Aグループ

（効果が高くて実行しやすい）

- ・ 「不登校は問題行動でない」ことを周知し、保護者対象も含めた支援団体等を紹介するためのパンフレットやHPの作成・更新を行う。
- ・ 勉強にとらわれず学校以外の場での活動や体験など、様々な学びに関する情報を保護者や子どもに提供する。  
学びたいと思った時に学べる環境を整え、併せて、休みたいと思った時には休むことの大切さも周知する。
- ・ 学校内に、不登校の保護者同士が悩みを話し合ったり情報を交換したりする場（親の会）をつくり、保護者の相談支援体制の強化を図る。
- ・ 民間の支援先と学校とが密に連携できる仕組みを構築する。

（効果が高くて実行しにくい）

- ・ 「学びの多様化学校」設置のための検討を促進する。
- ・ 平日、市内を子どもだけで移動できる手段（スクールバス等）を整備する。
- ・ スクールソーシャルワーカーなど、学校と民間とをつなぐ「不登校支援の専任コーディネーター」を増員し、固定的に配置する。
- ・ スペシャルサポートルームを全小中学校に設置し、専門性の高いスタッフを配置する。



## (2) Bグループ

(効果が高くて実行しやすい)

- ・ 発達に不安のある児童生徒の現状把握。
- ・ 不登校傾向にある児童生徒への早期アプローチ。
- ・ 子どもの話を聞く、また、子どもが話しやすい人や場をつくる。
- ・ 「子どもを学校に行かせなければならない」という固定観念にとらわれないことを保護者へ助言する。

(効果が高くて実行しにくい)

- ・ 民間と学校が対立するものという意識を変える。
- ・ 「学びの多様化学校」を設置する。
- ・ 転校に係る要件や手続きの簡便化。
- ・ 外国にルーツのある子どもに対するプレスクールでの日本語教育の充実。



## (3) Cグループ

(効果が高くて実行しやすい)

- ・ 小中学校のスペシャルサポートルームを増設する。
- ・ リモート授業の実施やタブレットを有効活用する。
- ・ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置の促進。
- ・ 悩みをもつ保護者が集まり、話し合う場を設ける。

(効果が高くて実行しにくい)

- ・ フリースクールに対する公的助成。
- ・ 放課後児童クラブや廃校等を利用した不登校の子どもの居場所づくり。
- ・ 不登校の子どもを持つ親の働き方に対する支援。

- ・ 個別の学びの保障。



#### (4) Dグループ

(効果が高くて実行しやすい)

- ・ 夏休みの宿題を減らす。体調が悪い時にすぐに保健室に行けるようにする(子どもに寄り添った柔軟な対応)。
- ・ オンライン授業やオンラインでのチャレンジルームの実施。
- ・ 各学校にスクールソーシャルワーカーを配置する。
- ・ 保護者や教員向けの講演会や研修を実施する。

(効果が高くて実行しにくい)

- ・ フリースクールや学びの保障のための、家庭への経済的補助(不登校離職などへの支援)。
- ・ すべての学校に、自由利用の校内フリースクールをつくる。
- ・ いじめの加害者を守るシステムを、被害者も守られるように変える。
- ・ 学びの多様化を促進する。
- ・ 各学校にスクールソーシャルワーカーを配置する。

